

## まちづくり出前市長室（瀬戸地区）開催記録

1. 日 時：2013年7月18日（木）19時～21時
2. 場 所：瀬戸公民館
3. 参加者：市民23人、市関係者（市長、副市長、教育長、政策監、企画総務部長、市民環境部長、教育次長、学校教育課長ほか）

---

1. 瀬戸地区自治振興会会長あいさつ

2. 市長あいさつ

**市長** 瀬戸地区での出前市長室は、前回、平成23年7月9日に開催し、色々な意見交換をさせていただいた。

今回は、教育問題を中心とした意見交換になるが、教育長も来ており、教育に関しては教育長に主導権を取っていただき、話をすすめるのでよろしくお願ひしたい。

3. テーマに基づく意見交換

（テーマ：「地区自治振興会とまちづくり」～住民参加の現状と課題～）

**会長** 私は、前任者から会長を引き継いで、今年で3年目になる。その間、色々な地域を見て回った。瀬戸地区には、新興住宅街と漁業関係の地区があり、基本的には、生活圏の違いがあるが、色々な人が集まって、同じレベルで活動をしていくことは可能であると思っている。

今年で3回目になるが、鳴門シーガル病院から、災害用移動式炊飯器を寄贈していただいた。それをきっかけに、瀬戸町の6つの地区から応援していただき、瀬戸町全体で、1つのことを目的に、「コミュニティのつどい」ができた。それこそ、私たちが考えている協働のまちづくりにつながっていくのではないかと思う。これからも、皆様のお知恵を借りてやっていきたいと思っている。そのためには、地元住民だけではなく、行政の応援もいただきながらやっていかなければならないので、今後ともよろしくお願ひしたい。

**市長** 瀬戸地区は広範囲であり、地域の方々も様々な業種に就いている。そのため、会長はじめ役員のかたは、調整に非常に苦労されていると聞いている。会長が力を入れておられる「瀬戸地区コミュニティのつどい」は、平成24年、25年と2年間開催された。私も参加させていただき、1回目よりも2回目の方が地域の連帯感の強まりを感じた。今後も続ける中で活動を拡げていただきたいと思っている。

その中でも、中心的な存在である地区の婦人会の活動に目を惹かれた。シーガル病院との連携で、災害用移動式炊飯器を寄贈していただき、安心安全のため炊き出し訓練等を行い活動されていることが強く印象に残っている。

もう1点は、休校になった島田小学校の管理である。管理状態も非常に素晴らしく、

これだけのことができるのは瀬戸地区、特に島田地区の皆様の協力があるからだと思っている。毎年行っている、島民運動会もだんだんと瀬戸地区全体に広がっており、鳴門高校生や、かつて島田地区で生活されていた人も帰って来て参加されていた。私もまた参加させていただきたいと思う。

島田小学校については、色々なところから、「活用させてほしい」という要望がある。今は、休校という形で地元で管理をお願いしているが、都会には、島田小学校やその周辺の環境に興味を持たれているかたがいるので、島田小学校の活用について、まずは地元のかたと話をしながら、進めていきたいと考えている。また、花街道の活動についても、だんだんと広がってきていると思っている。

青色防犯パトロール隊も、結成されてから今年で3年目になる。板東地区に続いて、2番目に結成していただいた。ほかにも、地域をあげて、道路の危険箇所の点検をしていただいていると聞いている。安心・安全の分野については、瀬戸地区に非常に力を入れていただいております、今後も、その分野を伸ばしていただきたい。

一点、報告がある。平成24年8月29日に、明神自主防災会から、明神川に不法係留されている船を撤去してほしいとの要望書が提出された。県と協議し、県が撤去要請の看板を河川堤防に設置した。

また同日、明神川の浚渫の要望もあり、これについても、9月3日に現地を視察した際、皆様から個別に事情等を聴かせていただき、現状の問題点を確認した。10月30日に、平成24年度の「知事市町村長懇話会」があり、その場で、私から知事に、明神川の浚渫と不法係留船舶の撤去及び護岸のかさ上げについて要望している。

明神川の浚渫について、県の回答は「全部の撤去はできないが、少しずつでも維持管理の範囲内で行う」とのことであった。

最近、改めて県に確認したところ、明神川の浚渫については、現在、測量設計を発注しており、浚渫が必要な箇所を順次施工する予定で「今年度については、一部の浚渫を考えている」との返事である。測量設計の結果によっては、堆積土砂の量がかなり多くなり、浚渫工事を来年度に持ち越す可能性も出てくるとの話もあり、今は測量設計の結果を待っているところである。

また、護岸のかさ上げについては、「徳島県の海岸における設計津波の水位について公表がなされたが、河川の設計津波の水位については、今後検討されると思われる。」という回答をいただいているので、河川の設計津波の水位が公表された後、再度、話をさせていただきたい。要望書をいただいてから約1年間の報告を、この場を借りてさせていただいた。

**市民** 市長は、20年、30年後の鳴門市全体の将来像をお持ちか。

**市長** 昨年、第六次鳴門市総合計画を立てた。これは、10年のスパンで考えている。

第一次総合計画は、昭和40年後半に作られた。第一次から第四次総合計画までは、人口が右肩上がりに増えていく街を目指していた。第五次総合計画の作成時には、

これ以上は人口が増えないだろうと、横並びの形で街を作っていこうとした。

人口増のピークを過ぎ、だんだんと減っていくのは目に見えている。人口減少は止められないが、10年後の人口推計55,000人を、どうにかして、57,000人くらいまでにとどめたいと思い、今回の計画を立てている。20年、30年先には、人口減少を食い止めたいが、非常に難しいと思っている。人を増やしていくには、20年、30年とかかるので、今から人口を増やす計画をしていかなければ、人口減少は止まらないだろう。

人口減少を止めるためには、地域経済を活性化していくべきだと思っている。よく言われるように、大企業を誘致することも大事かもしれないが、地域間競争や他国との競争があるので、なかなか難しい。そこで「エコノミックガーデニング」という手法を用いて、地域の企業にもっと頑張ってもらい、雇用を増やして税収を増やすという施策を始めている。

例としては、アメリカのリトルトンという人口6万人ほどの街で、15年、20年かけて地域経済を育てる考え方で、税収が3倍、雇用が2倍になった。現実には、そこまでできるかどうかはわからないが、目標を掲げてさせていただきたい。

もう1点は、人口6万人の小さな街ではあるが、鳴門教育大学がある街として、教育を一つの中心に、人を呼び込んでいくことも考えていかなければいけない。教育も20年、30年のスパンで考えていく必要があるので、去年からのスタートだと思っている。昭和50年代の前半の鳴門市は、四国の中で最も輝いていた街の一つだと思っている。20年、30年後のイメージとなれば、少し人口が減るかもしれないが、もう一度、四国の中でも輝ける街にしていきたいと思っている。

漠然としたイメージだが、20、30年後のことを考える前に、まずは10年間でできることをしっかりとやっていきたい。

**市民** 鳴門市は、四国の中で最も人口が伸びる可能性がある土地である。その土地をフルに活用すれば、十分に人口が増える可能性がある。近い将来、本四高速道路の通行料金は、その他の高速道路と同じになる。そうなれば、鳴門市は、すごく伸びる可能性があるが、それを生かし切れていない。

私が住んでいる堂浦は、光通信が入っていない。市全体で、強力なブロードバンドを引いて、企業を誘致すれば良い。それも、大企業ではなく、神山に入っているような将来性のある小さな企業。それと同じことが鳴門でも可能である。鳴門市が率先してブロードバンドを整備してほしい。インターネットを使って仕事をしているが、光通信がないことで不便を感じている。若い人が入って来て仕事をするには、快適なネットワーク環境を整えることが大事である。将来にわたって、通信ネットワークの道づくりをしないと将来性がない。ブロードバンドを整備すれば、どこにでも住めるし、仕事もできる。関西の企業のサテライトオフィスを鳴門に持ってきたら良い。瀬戸地区の堂浦は、全国的に釣りが有名である。そのようなことをイメージとして、どんど

ん打ち出していったら、すごく人口が増えると思う。NTTに、何年も前から言っているが進まないの、市のほうから強力で押し進めてほしい。

**市長** 1年程前に、私からもNTTに同じような話をした。その時は、あまり取り合ってくれなかったが、その後、NTTから話があり、瀬戸局については、光通信の整備を進めていくとの話をいただいた。だから、その話は出てくると思う。

また、テレビ鳴門の社長、専務と話をすることがあり、光テレビをやっていきたくて聞いた。来年度から予算要求等も含めて、広がっていくよう進めてほしいと思っている。

先ほど、サテライトオフィスの話があった。神山には9社来ているそうだ。鳴門のように、自然環境や交通の便が良い場所でもやっていけるだろう。同等の設備ができれば、鳴門も負けていない。岡崎のあたりなどの街中でもできると思う。そういう整備の話は、テレビ鳴門と具体的に進めていきたい。

**会長** 自然環境の良さをもっと生かした施策を考えていただきたい。

**市長** 明神地区に複合産業団地があり、中山にもソフトノミックスパークがあるが、完売している。その理由としては、3.11以降、高い場所に工業用地を構えたいという企業の思いがある。木津中山～北灘のラインには、インターチェンジがあり、非常に便利であるとの意見をいただいております、われわれが工業団地を造るというのではなく、考え方を換え、そこを開発できるような地区計画を策定し、民間の活力を入れていながら、工業団地として整備し企業を呼び込んでいきたい。

**市民** テレビ鳴門の話に付け加えると、インターネット上のコンテンツに面白い番組を流したら、全国的に視聴率が増える可能性が出てくる。そうなれば、テレビ鳴門に莫大な広告料が入る可能性がある。全国の1～2パーセントの人が見るくらいの、コンテンツを作るくらいの気概を持ってやってほしい。

**市長** テレビ鳴門では、そのようなことも含めて考えていると思うし、私からも提案させていただきます。

#### 4. 地域の課題について意見交換

##### ① 瀬戸中学校の今後のあり方について

※学校教育課長より、資料に基づき説明

**会長** 統合準備協議会の概要について、瀬戸町・北灘町の世帯には、広報なるとに折り込みのチラシで知らせるとの話を聞いているが、鳴門市全体に広報することが必要ではないか。

**学校教育課長** 広報なるとへの折り込みのほかに、広報なるとの記事としても掲載する予定である。

**市民** 校歌・校章を変える理由を教えて欲しい。北灘の小学校の卒業生全員が、新しい瀬戸中学校に入学するわけではない。それなら新しい学校という意味が薄れてくる。瀬戸中学校のこれまでの卒業生が馴染んだ校歌を変えてしまって、新しい学校になったと言っても意味がない。今後、北灘の小学校の卒業生は、新しい瀬戸中学校に入学する保証があるのか。校区外の中学校に通っている生徒が何人いて、それは、どんな理由からか。義務教育であり、校区として成り立っている学校であるにも関わらず、大半の生徒が他の学校に行っている。「対等統合」などという話が成り立つのかどうか、校歌まで変える必要があるのか説明してほしい。

**教育長** 北灘中学校・瀬戸中学校を新しい学校として統合することが決定した際、新しい校名は、「瀬戸中学校」とすることとした。校歌・校章等については、どのように決めるのかとのことだが、再編にあたっては、両中学校区の保護者、地域の代表のかた、学校の教員などの委員によって組織する「鳴門市瀬戸中学校・北灘中学校統合準備協議会」で、新しい中学校の色々なことについて、協議し、決めており、新しい中学校名も決まった。その後、校歌・校章をどうするのかという審議もされ、「校歌・校章については変えたほうが望ましい」という話し合いが進んだ。

先ほどのご質問は、「北灘の小学校から、瀬戸中学校へ行かず、別の中学校に行くのであれば、新しい校名・校章にしても意味がないのではないか」とのことだったと思う。統合準備協議会でもそのような問題が出た。「統合されても、北灘から瀬戸に来てくれないと意味がない」とか「瀬戸地区からも別の中学校に流れて行っている」ということから、「再編して、瀬戸町・北灘町の子どもが全て瀬戸中学校に来てもらえるような学校を作っていかなければいけない」との話し合いがなされた。

今、鳴門市では、指定学校制と言って、住所によって通う学校が指定されている。しかし、色々な事情があって、通う学校を変更するという仕組みがある。そして、今、瀬戸中学校へ通うべき子ども達が他の中学校に通うというようなことは、瀬戸中学校だけではなく他の中学校でも起こっている。

現在、指定校を変更するための認定基準は10項目あるが、その中の一つに該当した時に、指定された学校以外の学校に通学することができる。色々な場面で説明をさせていただいた折に、「指定された学校以外のところにたくさん流れているのは、教育委員会で定めている基準が、時代にそぐわないからでは」という意見もあり、昨年度、基準を見直すために、教育委員会の中に検討会を立ち上げて協議をしてきた。

このたび、新しい基準が中間まとめとして出来上がった。今後は、中間まとめを、保護者の皆様や校長会で説明させていただき、色々なご意見をいただく中で、基準について確定していきたい。そして、平成26年度の入学生から新基準を採用したいと考えている。

地域の皆様の立場としても、教育委員会としても、北灘町・瀬戸町の子どもたちが、「新しい瀬戸中学校に、全員が通っていただきたい」という思いがある。しかしなが

ら、家庭の事情等で、「どうしても違う中学校に行きたい」という場合もあるので、そこは、新しい基準に従いたいと思っているのでご理解賜りたい。

**市民** 新しい学校になって、学校を充実させるという主旨はわかるが、名前や校歌を変える前に、実質的に瀬戸中学校を、校区から出なくても良いような魅力ある中学校に、良い先生を入れるなどしてレベルアップして欲しい。北灘中学校・瀬戸中学校が真に統合出来て、校歌を変える必要が出て来てから変えても良いのでは。最初から、「新しい中学校になるから良くなる」という考え方より、実質的な中身を変えてほしい。実質的な中身を変えずに、「校歌を変えよう、校章を変えよう」と言っているように聞こえる。

もう1点は、協議会の委員だが、その委員の中に両中学校の卒業生代表がいないことに不満を持っているかたが町内に多数いる。校歌まで変えてしまえば、卒業生の心のよりどころがなくなるのでは。行政は、「新しい学校を作るのだ」と思っている、受ける側からすると、校歌を変えることに抵抗がある人がたくさんいる。そのことを十分にご理解いただきたい。

「広報なるとに掲載されていた」とのことだが、校区は住民の大事なコミュニティの1つだ。各戸に案内状くらいは配布しても良いのではないか。明神の軒数分を用意したのか。そのようなことから、住民・教育委員会・行政が一緒になって「中学校を良くする」という絆が生まれるのではないか。

**市民** 一度だけ、統合準備委員会のお知らせをもらった。「私は関係ないだろう」と思い参加しなかったが、4月の会議に出席し、校名が変わることを知った。そこで、「私も会議に参加しなければ」と思い、「次はいつあるのか」と電話で訊くと、「一般の人は入れない。準備協議会の人だけで話を進める」と言われた。「どのようにして、委員が決まったのか」と訊いたが、はっきりした答えは聞けなかった。そこで、知り合いの先生に、「どうして準備協議会の人しか参加できないのか」と訊くと、「そのように決まったからだ」と言われ、びっくりした。瀬戸中学校・北灘中学校それぞれの校長先生は瀬戸町・北灘町の住民ではない、その人たちが決定するのはどうかとの思いでひとこと言いたくて今日は参加した。他の住民が参加できないこと自体おかしいのではないか。最初の会議に参加しなかったことが悪いと思うが、まさか、校名が変わるとは思っていなかった。だから、統合準備協議会以外の人も参加できるような会にしてもらいたい。どうして参加できないのか、理由を訊きたい。

**教育長** 北灘中学校・瀬戸中学校の再編も、小学校同士の再編についても同じだが、学校の大きさ、生徒数はそれぞれ違っても、どの学校も長い歴史があり、地域に支えられて頑張ってきたということもあり、再編に際しては、対等の再編ということで、一旦学校を閉めて、新しい学校を立ち上げるという方針でやっている。

最初の、瀬戸町における再編についての話し合いは、教育委員会が各家庭に訪問して、全戸に案内状をお持ちしたが、見ていただけなかったかたがいるかもしれない。

再編については、対等を心掛けているが、北灘町、瀬戸町それぞれの代表のかた、再編するそれぞれの学校の代表のかたなどに出させていただいて、「統合準備協議会」を立ち上げて、色々なことを協議していくということが、どこの地域でも行われている方法であり、時間を効果的に使いながら、1年間かけて新しい学校づくりをしていくとの考え方のもと協議会を作らせていただいた。

**市民** 保護者には言うとのことだが、両校の卒業生に対しては、「閉校します」という案内を出すのか。住民感情を無視した話し合いがされているように思う。

**教育次長** 両校の再編については、それぞれの学校の保護者にお話をさせていただき、ある程度方向性が出た時点で、瀬戸地区において平成24年10月25日に説明させていただいた。北泊の住民のかたには、11月8日に北泊の公民館で説明させていただいた。その際、「校名も含め、変更する可能性があるかもしれない、新たな学校を設ける」という主旨の説明させていただいた。決まった手続きを取ってきたつもりだったが、至らない点もあったかもしれない。その点については、おわび申し上げる。

**民生委員** 10月25日にたまたま会に参加した。「対等統合や校名を変える」という話しは一度も出なかった。私は、北灘町の子どもを瀬戸中学校に受け入れることは当然だと考えていた。ところが最後まで教育委員会側は「これで統合に承諾してくれましたね」と何度も訊かれたが、その時に私たちは、校名などを変えることには最後まで賛成はしなかった。もうひとつ、川崎小学校と板東小学校が統合される時も、こういうようなことをしたのか。

**教育長** 川崎小学校と板東小学校の再編についても、川崎小学校の保護者や地域のかたにご理解いただいたうえで、板東小学校にも同じように、再編の話に行った。板東小学校にも、再編することで理解していただいて、統合準備協議会を同じように立ち上げた。そのメンバーについても、両校の保護者の代表、地域の代表、再編する学校の代表のかたで協議会を立ち上げて、校名・校歌・校章・PTA活動・子どもたちの教育課程、諸々のことを、再編協議会の中で審議していただいて、1年間のうちに、決定させていただいた。そして、4月1日に、新しい学校として、校名も協議した結果、『「板東小学校」で良いだろう』とのことで、川崎小学校も、板東小学校も、3月31日をもって閉校し、4月1日からは、新たな板東小学校として立ち上がった。

**市民** つぶされる方に詭弁をつかったのか。誠実味がない。統合準備協議会を立ち上げるのであれば、14名という人数は少なすぎる。委員の中には、鳴門市の住民もいるが、瀬戸中・北灘中の学校長は、鳴門市の住民ではないだろう。

**市民** これだけの意見が出たのだから、市長は、これから統合を推し進めていくのか。

**教育長** 担当課は教育委員会なので、教育委員会から伝えたい。

平成20年度に「鳴門市学校づくり計画」が策定された。これは、「鳴門市の子どもたちの教育を今後どのようにしていくのか」という考えのもとで策定された。その中に、学校の再編について書かれている。学校再編については、子ども達の数が増減してき

たので、複数の学年で学級を構成する「複式学級」が出てきたことが背景にある。

**市民** 私は、80歳になるが、瀬戸中学校は、25、30、40、50周年と節目ごとに記念式典を行ってきた。特に、50周年の式典の時には、約1,000万円もの浄財が集まり、立派な記念誌を作った。また、卒業生の為に旧校舎の記念碑もある。新しい中学校になると、これらの記念碑はどうなるのか。それ以外に、「瀬戸中学校京阪神同窓会」というものがある。だいたい5年ごとに会を設定し、古い卒業生や当時の先生方を呼び、神戸・大阪・京都から200名くらい集まって行事をしてきた。愛校精神の表れだと思う。最近になり、50周年以降の同窓会は開催されていないが、色々な記念碑などは、どのように処理するのか。

**教育長** 瀬戸中学校の素晴らしい成果については、大切に残していかなければいけないので、新しい瀬戸中学校になっても、そうしたものをきちんと保存していきたい。北灘中学校についても、同じような歴史があるので、両校が再編されたという歴史を、きちんとわかるような形で残していきたいと考えている。

**市民** 要らん金使わんでも良いのではないか、緞帳も新調するのか。

**会長** そういう動きになっていくのではないか。

**市民** 対等統合にこだわると、必要のない費用がたたくさんいる。

**市民** 古いものは、何らかの形できちんと残していただけるようお願いしたい。

**市民** 昔に卒業した人は、統合されることに抵抗感がある。「対等統合」などと美辞麗句を並べるのではなく、単に「統合」で良いのでは。北灘から瀬戸に行くのであれば良いが、北灘から何人の生徒が瀬戸中に来てくれるか、その保障もないのに、「対等統合」などと恰好の良い話だけするのはおかしい。行政が最終的に決めることだから、我々が幾ら言っても仕方がないが。

**会長** 皆さんの言いたいことやお気持ちは良くわかるが、統合されることは事実である。

**市民** 再編の話は、1人でも反対する人がいたら、しないはずだったのに、後になると、「ご理解していただいたので進める」というようになった。途中で話が変わってきている。誠実さが無い。最初から腹を割って「お金がないから統合してください」と言えば良かったのに。

**教育長** 私たちは「お金がないから再編する」という考え方ではない。少子化で、子供の数が減ってきた中で、一定の生徒数がいなければ、色々な面で、子ども達の学びが豊かでないとの思いがある。小さな学校、大きな学校それぞれに良さがあるが、小さい学校でも、ある程度の生徒数がいなければ、グループ活動など、色々な活動ができない。そのため、一定の生徒を確保するために、再編は避けられないとの考え方のもとで、説明会に回っている。決して、お金がないから再編するわけではない。

**市民** 元教師が質問に答えたものを見ると、「小さい学校、大きい学校、それぞれに良さがあるが、それを選択できるかどうか、ということが大事だ」ということだった。大きいところが必ずしも良いとは思っていない。さっきも言ったように20年30年先を

考えて、鳴門市で一つの学校にして、そこへ通えば良いではないか。

**教育長** そういう極端な話しではなく北灘町・瀬戸町それぞれを1つの校区として、小学校があり、中学校がある。そうしたことが、地域性であると考えている。地域性を残していきたい。

**市民** その地域性をつぶそうとしているではないか。

**教育長** できるかぎり、地域性を守っていこうとの考え方である。

**市民** それなら、校区外の学校に行かないようにすれば良い。

**教育長** それについても、先ほども申し上げた通り、基準を見直す作業を進めている。

**市民** 北灘から瀬戸に、全ての生徒が来てくれるのであれば、何もかも相談し合って、良い方向に進めていくはずである。ただ、現在でも北灘町榎木のあたりでは、瀬戸中ではなく、鳴門一中に行っている人がすごく多い。だから、将来、どうなるのか。校歌まで変えて良いのか、と言いたい。

**教育長** 教育委員会としても、北灘に住んでいる子どもが、全て瀬戸中学校に行ってしまうと思っている。そのためには、北灘中・瀬戸中を形だけ再編するのではなく、大事なのは、ソフト面で、教育の中身をどうするのか、魅力ある学校づくりをどうするのか、ということが非常に大事であると思っている。

現在、そのことについて考えているが、1つは、小・中学校の連携については、もう少し研究していきたい。また、小・中一貫校についても考えていきたい。魅力ある学校づくりをすることによって、北灘町・瀬戸町の全ての子どもが、瀬戸中学校に行ってもらえるような学校づくりを、今後は進めていきたいと考えている。

今、鳴門第一中に流れている生徒については、クラブ活動を理由としている場合がほとんどである。この部活動についても、現在、色々な形が取れるように検討しているところである。小さな中学校には、色々な部活動がないことが問題になっているおり、隣の鳴門中学校も部活動の問題で、苦慮している部分がある。色々な部活動がなくて困っている場合については、「合同部活」ということで、2つあるいは3つの中学校の生徒が集まって部活動をやっていく、また、「拠点方式」と言って、ある1つの中学校に集まって部活動を構成して活動するというのも、現在検討している。したがって、瀬戸中学校の生徒が「こんな部活動をしたい」と言った時に、できるだけそれに応えられるような仕組みを検討している。

**PTA会長** 新しく作られる学校が、子ども達にも、保護者にとっても、魅力のある学校づくりを目指してほしい。部活動の問題もあるが、子ども達が卒業する時に、どんな子ども像を作るのか、それが義務教育では一番大事なことだと思っている。

瀬戸中学校には、現在、文化部がない。今年から、校長先生の計らいで、音楽サークルのようなものを立ち上げていただいている。瀬戸中学校にも音楽のクラブ活動を作してほしいとの意見もある。北灘からも、「瀬戸中に音楽部があるのであれば、行きたい」との声も聞いているので、小・中一貫校なども含めて、教育委員会として、具

体的なものがあれば教えてほしい。また、新しい中学校になるので、4月1日を目標に、施設面の整備もやっていただきたい。

**教育長** 施設の改修については、校長先生からも「教室の内装を整備したい」と聞いている。統合されて、新しい学校になるので、できるだけそれにふさわしい環境づくりをしていきたいと考えている。

もうひとつ、小・中一貫校については、現在、小学校が6年間、中学校が3年間でやっている。これを9年間見通して、そして教育課程あるいは学校行事を、小学校と中学校が一緒になって検討して、中学校3年生で子どもが卒業する時に、どんな子ども像を作るのかということが大事である。従って小・中学校の連携を、しっかりしたものにしていくように連携教育に取り組みたい。

**P T A会長** 幼・小・中の連携をきちんとして、中一ギャップ、小一プロブレムの問題などに対応してほしい。特別支援の子ども達にとっても、幼・小・中の連携は先生との関係も密になってくるので良いと思う、しっかりやっていただきたい。

**教育長** 将来的には、小学校と中学校の先生の人事交流とか、幼・小の交流を視野に入れながら、より連携を密にして、小一プロブレム・中一ギャップなどの問題に対応していきたいと考えている。

**市民** 2点質問したい。

1点目は、部活動の件で、「2校、3校が合同で活動することを検討している」との話があったが、具体的に、案の段階で構わないので、今話していただきたい。

2点目は、市に対して陳情したい。明神の旧11号線から北泊までが通学路になっているが、車が対向したら道いっぱいになり非常に危ない。今は、先生方やP T Aの努力で安全が保たれている状態。公民館から中学校間の道は新しくしていただいているが、後は未整備である。子どもを学校に出してから、帰ってくるまで心配している。北泊に住んでいるかたの通勤ラッシュと子どもの通学時間が重なる。また、堂浦の道は細いので、スピードが出ているように感じる。北灘中・瀬戸中が統合するので、安全な道を確保してもらい、子供を送り出したい。市道・県道の別はあろうが検討していただきたい。

**市民** 沢内科から阿波銀行瀬戸支店を通って突き当たりまでの道は、点線で白線を引いてもらったが、阿波銀行瀬戸支店の手前50メートルから突き当たりまでは、黄色線になっている。市の土木課に問い合わせると、「点線の白線は市だが、黄色線は規制となるため警察だ」ということだった。小学生や中学生が通行している道路を、点線の白線だから、追い越しても良い、線をはみ出して通行しても良いというのはおかしい。時速50キロメートル制限だが、横断歩道が2~3か所しかない。「信号を付けてほしい」と言っても、「お金がない」といつものパターンで言われる。全て黄色線にしてほしい。私は、毎朝、小学生に横断歩道を渡らせているが、危なくて仕方がない。市の管轄かどうかわからないが、白線が多くを占めているのはおかしいと思う。

**教育長** 部活動の問題については、今後、少子化がますます進行する中で、瀬戸中だけではなく、大麻中や鳴二中、鳴門中などでも色々な部で部員数が不足して、部活動が続けられない、大会に出られないという状況が出てくるだろう。現在も、そのような状況があり、試合に出るのに足りないメンバーを、大きな学校から借りてくるという形を取っている。また、部員数の少ない学校同士が一緒になって、試合に出るメンバーを満たして大会に参加するなど、様々な形があるが、このようなことは、それぞれの学校の校長先生並びに部活動担当の先生、保護者などのご理解をいただいたうえでできることなので、今後は、校長先生や先生方にご理解いただき、そうした取り組みがしやすいように、教育委員会が枠組みを作っていきたいと考えている。

**市長** 道路の件だが、白線を引く前に、公安委員会から、「白線と黄色線を引くことについては、問題があるかもしれない」と聞いていた。その中で、市としてできることをやっていくとのことで、白線を新しくさせていただいた。

行政がこのようなことを言うのは心苦しいが、信号・黄色線は、管轄が公安委員会になっており、信号の増設をお願いするにしても、県下全体のバランスからみて、優先順位を付けるという話が常に出るだろう。新設する場合、老朽化したものを取り換える場合、いずれの場合も、予算の中で行うという話があった。沢内科の前の道路の件については、何度もご要望があったと思うが、結局はそのような回答になっていく。申し訳ないが、今後も絶えず県警のほうには話はしていきたい。

道路の拡幅の件だが、瀬戸公民館前から学校入口手前までの道路に古い家がある。県としては、その道路を拡幅したいが、地権者との話し合いがなかなかできない現状がある。「話ができれば、ご要望通り拡幅したい」とのことだった。

もう1点は、通勤道路が非常に狭いとのことだが、その通りだと思っている。ただし、県道であり、用地買収等についても、家が道路の間近まで来ているので、用地を買収することになれば、皆様のご協力が得られるかどうか難しいところがある。逆に、海のほうに拡幅することは、堤防があるので難しい。そのため、何とかして、別の方法で安全を確保できないのかということ、質問を訊きながら考えた。狭い道路だが、バスも通っており危ない。ご提言は、十分理解しているので、できるかぎり、何か考えたいと思っている。

**市民** 明神川の堤防の件で、色々に対応していただいて感謝している。それ以降、明神川の堤防から人が落ちる死亡事故があったので、堤防のかさ上げをしてほしい。

もう1点、ゴミ問題の話になるが、「平成20年2月29日に、この公民館で不具合の説明をした時に、クリーンセンター工務課長が説明したことが間違っていた」との答弁が、去年の6月議会であったと思う。議会で「説明が間違えていた」と言っただけであれば、住民は何も知らないままだ。市が主催して、地域で現状を説明し直して了解をもらうのが筋ではないか。そのことを、自治振興会を通じて市に申し上げたが、「委員会で説明する」との話だったが、この前の町内会では、「話はない」とのことだ

った。市長はどうお考えか。

**市長** クリーンセンターにある焼却炉の二次燃焼室の話だと思う。「平成20年2月に説明したのは、変更前の仕様について説明してしまったものだ」との答弁だったと思う。実際には、流動床式ガス化炉で発生した二次燃焼ガスが、熔融炉入口から二次燃焼室入口までで完全燃焼しているということも併せて説明させていただいたと思う。「議会答弁の中でそのような話をしたのであれば、当然市が主催して地域に説明するべきでは」とのお話だと思う。市としても、誤った説明をしたことについては、非常に申し訳なかったと思っている。

**市民** 行政が間違った説明をして、議会で訂正したのみでは、言い放しという感じがする。文書を配布するなどしてでも、地域に訂正しなければいけない。間違ったまま、公文書として残っているわけだから。

**市長** 公文書として残っているが、議会の中で訂正させていただいた。そのことは、1つの答えだと思っているが、時間をいただいて考えさせていただく。どのような話になるのかは、回答させていただきたい。

**市民** 何度も催促しなくても良いように、必ず回答してほしい。二次燃焼室であるかないかも含めて。

**会長** 色々ご質問をしていただいたが、瀬戸中学校の問題以外にも、ご質問・ご意見があれば、出していただきたい。

**市民** 住んでいて、お店がどんどんなくなっている感じがする。コンビニはあるが、お年寄りには、大きなお店にバスに乗って行っている。「子ども達を育てたいけど、撫養町まで行かなければお店がないから、移動販売車があれば便利なのに」という話をよく聞く。鳴門市としては、移動販売をする方向性はあるか。

**会長** 将来、瀬戸地区の住民が買い物難民になる可能性もあるので、移動販売のような方法も考えてほしいとのご質問かと思う。

**市長** 市内全域を見ても、八百屋さんとか、魚屋さんのようなお店がなくなってきたように思う。堂浦や北泊でも、お店がほとんどなくなっているのが現実である。

今、徳島市では、民間事業者が「とくし丸」という販売車で移動販売を行っている。その関係者に来ていただいて、部長会で話をさせていただいた。鳴門市がどのような仕組みで行っていくのかということについて、結論はまだ出ていないが、昭和40、50年代の市民サービスとはまた違った、平成20、30年代の買い物に対するサービスが必要になれば、そちらのほうにお金を回していこうかと考えている。

また、店を誘致する方法も考えられるが、利益が上がらなければ、なかなか出店していただけないので、一旦は、市バスの廃止に伴って路線は全て確保したが、違った公共交通機関が必要になれば、地域とともにそれも考えたいので、スーパーだけではなく、公共交通機関についてもトータルで考えたいと思っている。

**市民** 買い物ができなければ、どんどん内陸のほうに人口が移動するのでは。

**市長** そう思う。子どもの数が少なくなってきたとの話の中で、昭和46年5月に、都市計画法が施行され、線引きがされた。昔はどこでも家が建っていたが、市街化区域と、市街化調整区域という線引きをしたので、40年間、鳴門町土佐泊もほとんど家が建たず、農業や漁業をされているかだけが家を建てている。そのほかの人たちは、高島のほうに出て行ったことで、高島地区は転入者も増えてきた。

これと同じように、瀬戸町の北泊や堂浦のかたが、家が建てられないから、明神地区に出て行き、そちらで生活をされている。そうすると、40年間というスパンがあると、次世代の子どもが生まれないので、流出した地域の学校の生徒数が少なくなってくる。このようなことが、現実起こってきている。

もともと、明治時代から、小学校を中心とした街を創ってきているので、学校が無くなると地域がどうなるのかという不安も地域にはある。今、北灘中には3年生が3人しかいない。このことが、子ども達にとって、将来どうなのかと考えた時に、教育委員会がお話したことも大事だと考えているので、学校の再編があることを前提に、まちづくりを違った形でやっていけないのか、先ほどご提案があったことも含めて、鳴門市としてセットで考えているところである。なかなかその妙案が、皆様にご提示できないので、「このような時には、こうしませんか」ということが言えたら良いと思っている。

**市民** 市営住宅を若い夫婦に貸与して、「20年経ったら差し上げる」という形で、人口を増やす。そのような市外からの人口を増やすような政策も必要ではないか。

**市長** 空き家のことと言えば、今、鳴門市の空き家率は20パーセントくらい、県西部であれば、27パーセントくらいである。田舎の方だけが、空き家が出ているわけではなく、撫養街道沿いも空き家が非常に多くなってきている。固定資産税をどうするかとの話もよく聞かれる。また、転入者に現金を給付するというを実際にされている自治体もある。明神や堂浦も含め、中心市街地でも空き家が非常に多いので、同じようなことを考えていかなければいけないと思っている。中心市街地は、買い物をする場所、病院もある。少し前に流行った言葉で、「コンパクトシティ」と言って、歩いて通える場所を範囲として整備していくことも考えられる。また、中心市街地を再活性化して、人を呼び込める街として整備することも大事だと思う。集中投下すると、そこだけギャップが生じやすいので、全体を見渡しながらかえていきたい。

**市民** 競艇事業は、将来にわたって続けていくつもりなのか。20、30年先にはなくなりそうだが。今のうちに、ソフトランディングするような方向に持っていかなければ、後々大変なことになると思う。競艇場の土地は、将来、鳴門にとって財産になると思う。競艇をやめて、企業誘致をしたほうが、将来において、鳴門のためになると思うがどのように考えているのか。

**市長** 競艇場の土地は、8ヘクタールの広さがある。鳴門にとって、財産であるとの認識はある。現在、2年間休んで建物を建て替えるという計画は持っている。その建て

替え方だが、今、鳴門の競艇場が持っている、内部留保資金を利用して建て替えさせていたかどうかと思っている。

**市民** 借金をつぎ込んでも、20、30年先にはなくなるだろう。若い人は競艇場に行っていないのだから。

**市長** 20、30年ではなく、もっと短いスパンで考えている。具体的に申し上げますと、平成2年には、業界全体で、2兆円の売り上げがあったものが、現時点では、8,800億円程度になっている。これから右肩あがりに上がっていくことはまずないが、来年や再来年にやめてしまうのではなく、おっしゃったように、ソフトランディングの方向で、結末を見据えていきたいと考えている。競艇場が永久に続くという考え方は持っていない。

**市民** なるべく早くやめて、次に移ったほうが鳴門のためだ。

**市民** 競艇場の土地を更地にして活用できるのではないかな。非常にもったいない気がする。

**市長** 今の計画では、現在、11,000人の収容人員である施設を、非常にコンパクトにするので、利用方法はいくらかでも考えていけると思う、ランドマークとして、誘致を計画的に進めていく考えは、企業局も持っている。

**市民** 小・中学校の冷暖房化はできないのか。施設の整備をすることは、教育上、重要なことではないのか。

**市長** 大麻中学校の校舎を新しく建てる時、冷房を入れた。だから、大麻中学校だけは、空調設備が入っている。他の中学校にもと思っているが、冷房を入れるだけではないかと思っている。空調を入れるとなれば、教育、学習の時間を長くすることなども考えている。

**市民** 勉強時間を長くして、夏休みを少しでも減らせば良い。暑い時に、暑い場所で勉強させるのはかわいそうだ。私が小さい時とは事情が違う。

**市長** おっしゃっていただいたことは、もっともだと思っているが、休みの長さを含めて、勉強時間を確保させていただきたい。もう少し時間をいただいたらお伝えできると思う。

**会長** 予定時間を過ぎたので、出前市長室を終わりたい。質問に出たことを市政に反映できるように、色々と検討していただきたい。

**市長** 様々な勉強をさせていただき、ご意見もいただいた。「ここまではできるが、ここはできない」との回答になるかもしれないが応えていきたい。いただいたご質問に全て答えることはできないかもしれないが、少しでも役立てていきたいと思う。

(以上)